

令和6年度卓越した技能者の表彰各部門を代表する技能者について

(目 次)

第 1 部門	松本 浩	(金属材料検査工)	第 12 部門	小泉 年延	(窯業絵付工)
第 2 部門	服部 新太郎	(旋盤工)	第 13 部門	星川 安弘	(水引細工工)
第 3 部門	堀川 一巳	(アーク溶接工)	第 14 部門	佐野 靖夫	(洋生菓子製造工)
第 4 部門	吉田 誠	(金属加工機械組立工)	第 15 部門	伊藤 恵子	(婚礼美容師)
第 5 部門	霜出 竜逸郎	(配電盤・制御盤・開閉制御機器組立工)	第 16 部門	堀井 良教	(日本料理調理人)
第 6 部門	永野 治	(自動車部品組立工)	第 17 部門	三上 和徳	(表具師)
第 7 部門	地主 成利	(染物・仕上工)	第 18 部門	守屋 一輝	(広告美術工)
第 8 部門	角田 春江	(婦人・子供服仕立職)	第 19 部門	立川 智	(印判師)
第 9 部門	高橋 茂吉	(建設・土木作業員)	第 20 部門	岩崎 雅二郎	(ソフトウェア開発技術者)
第 10 部門	塚本 勇人	(かわらふき工)	第 21 部門	植田 晃之	(微細加工実験工)
第 11 部門	古平 貞夫	(造園師)	第 22 部門	山下 弥壽男	(印判師)

※ 職業部門、氏名（敬称略）及び職種を記載。

1 部門	まつもと ひろし	61歳	金属材料検査工	《名簿番号2》
	松本 浩		【株式会社ジェイテクト 広報グループ TEL : 0566-25-7217】	愛知県推薦

○【鑄造の技能と検査の精度を兼ね備えたプロフェッショナル】

鑄造製品に関わる業務に長年従事し、原料溶解から木型作製、注湯、ばらし、仕上げまで鑄造工程全般を熟知し、鑄造特有の品質不具合を発見し、原因究明から対策までを行える卓越した技能を有している。

また、木型製作にも優れた知識と技能を有し、不具合の原因が木型である場合にも、適切に修正を指導することができ、鑄造製品の品質や生産性の向上に貢献している。

さらに、自身が持つ技能・知識を社内で標準化するための書類整備に取り組む等、技能伝承にも力を入れている。

○【ものづくりの原点で知識・技能の伝承】

1982年に豊田工機株式会社（現 株式会社ジェイテクト）に入社。入社時の工場見学で鑄造現場を見てものづくりの出発点に驚きと感動を覚えた。真っ黒な顔をした職人たちが楽しそうに仕事をしているのが印象的で、今でも脳裏に焼き付いている。

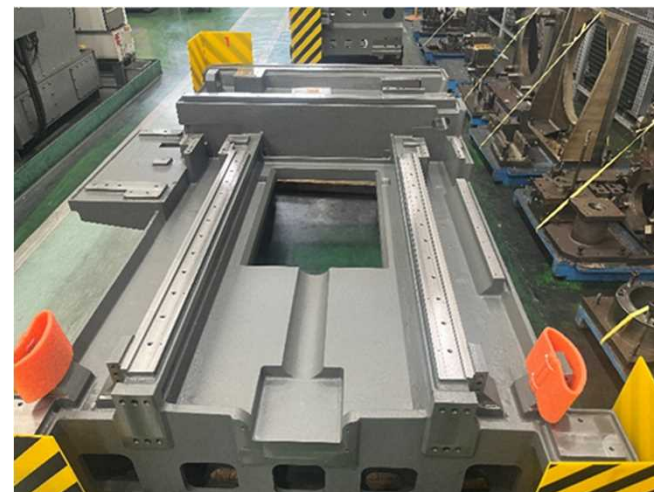
私は、鑄造で使う木型製作の職場に配属され、早く一人前になりたいと技能習得に励む中で技能五輪全国大会の木型職種に県代表として出場した。その後は、技能検定（木型製作）1級に合格する等、技能のレベルを高めるとともに、鑄造技能習得のために鑄造現場も経験し、「見て覚える」の時代に先輩方の温かい指導を受け、知識・技能の幅も広げてきた。

現在は鑄造品質管理業務に携わり、若い世代に対する鑄造に関する知識・技能の伝承と標準化に力を注いでいる。

本人近影



【製品のできばえを確認する様子】



【工作機械に使用される鑄造製品】

2部門	はっとり しんたろう	43歳	旋盤工	《名簿番号13》
	服部 新太郎		【株式会社 I H I 相馬事業所 相馬工場 技能訓練所 TEL : 0244-37-4193】	福島県推薦

○【普通旋盤を用いた航空機ジェットエンジン部品加工の第一人者】

高い精度が要求される航空機エンジン部品の製造において、普通旋盤による加工に卓越した技術を有し、特に、旋盤加工に通常求められる誤差が±0.02mmのところ、±0.005mmの精度で加工できる。また加工が難しいとされる薄物部材の加工や細溝形状の加工における第一人者である。

さらに、職場における若手社員への技術指導に加えて、県内の高校生への指導にも従事し、福島県高校生ものづくりコンテストにおいて入賞に導く等、後進の技術者の指導・育成にも貢献している。

○【自分の技術が航空機の安全運航を支える】

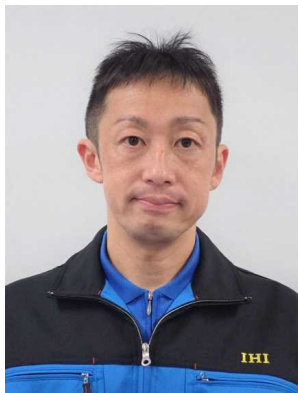
平成11年 I H I 田無工場に入社以来、一貫して普通旋盤による金属加工で腕を磨いてきた。尊敬する先輩に近づくべく国家技能士の資格取得にも取り組み、現在は「ものづくりマイスター」として後進の指導にもあたっている。

製品の加工にあたっては、視覚、聴覚、手に伝わる振動など五感を研ぎ澄まし、精度の限界に挑んできた。この匠の技は現在、NCのプログラムにも取り込まれており、更なる生産性の向上と高品質な部品の安定供給にも繋がる等、航空分野に果たした役割は大きい。

自分の技術が航空機の安全運航を支えていることに誇りを持ち、今後も品質に妥協することなく地道にものづくりに取り組んでいく。

コロナ禍でしばらく途絶えていた高校生に対する技術指導も再開したことから、自らの経験と、特に機械加工の楽しさや奥深さを若い学生に伝えていきたい。

本人近影



[普通旋盤を用いた製品加工]



[若手技術者の育成]

3部門	ほりかわ かずみ	59歳	アーク溶接工	《名簿番号22》
	堀川 一巳		【株式会社 日立インダストリアルプロダクツ 人事企画部 TEL：080-6886-8492】	茨城県推薦

○【大型産業機械（圧縮機及びポンプ・送風機・試験機等）の製缶・溶接作業における第一人者】

大型産業機械である圧縮機及びポンプ・送風機・試験機等の製缶・溶接作業に長年にわたって従事し、各種溶接・製缶技能について卓越した技能を有す。その卓越した技能で高信頼性圧縮機の高品質溶接の実現、効率向上を目的とした製缶溶接作業改善、また海外における技能指導等に貢献してきた。

後進指導としては、技能五輪大会選手を育成し多くのメダリストを輩出するとともに、社外でも厚生労働省「ものづくりマイスター」として、中小企業や学校等において実技指導等を行い後進の育成に尽力している。

○【探求心を持って、自己研鑽に努める】

ものづくりに興味があり、日立製作所（日立工業専修学校）に進み、技能五輪「電気溶接」選手としてスタート（全国大会に出場）、その後各種競技会で選手、指導員を経験させていただき溶接及び製缶の基本を習得した。勤務事業所及びグループ会社の製缶職場、国内火力・原子力発電所、国内外の各種サイトに出張し、製缶・溶接作業の腕を研いてきた。

自身の信条として、探求心を持ち「安全に物事が進められるか」「どのようにしたら上手くいくか」「迅速に対応できるか」を、日々考え行動に移し積み重ねていくことを「楽しんでできること」が重要と考え心掛けてきた。

今後も、自己研鑽に励み、経験した技能を多くの方々に熱意をもって指導し技能の伝承に貢献していきたい。

本人近影



〔圧縮機ケーシングの溶接指導〕



〔圧縮機ケーシング〕



〔ポンプケーシング〕

※ケーシングとは「回転装置の外枠部品」のことをいう

4 部門	よしだ まこと	64歳	金属加工機械組立工	《名簿番号34》
	吉田 誠		【株式会社 ミットヨ TEL : 082-433-2077】	広島県推薦

○【不良品を作らない 止まらない工場を目指す】

長年にわたり、機械組立分野に従事し、培われた精密な仕上げ組立ての知識・技能を基に、現在は、各種設備の保全、専用機械、治工具及び金型製作を主に担当している。

その中でも特に仕上げ分野におけるキサゲ加工とラップ加工の技能は余人をもって代えがたい卓越した技能を持っており、精密加工設備や製品等の更なる高精度・高品質への要求に対し、期待以上に貢献。

また、高度な知識・技能を生かし、後進の育成にも余念がなく、これまで多くの技能者を育成している。社外活動にも積極的に技能検定委員（仕上げ作業検定）や「ひろしまマイスター」として仕上げ作業技能の普及にも尽力している。

○【後継者育成を最優先】

機械組立分野に長年従事し、培われた精密部品の仕上げ組立て知識・技能を基に、機械設備の保全・保守並びに専用機・治具・金型の製作や特注製品製作を主業務に高度な技術・技能を駆使して貢献してきた。

外部活動においては技能検定委員として17年にわたり尽力し、検定（機械組立て・治工具仕上げ・金型仕上げ）の運営に貢献し、現在も県技能検定委員として活躍している。

また、自社においても新人・若手技能者の育成を図る上でスキルを向上させるべく社内教育での仕上げ作業の指導に25年間従事。現在も全社的な視点に立ち、社内制度である匠マイスターに任命され2番手を選任し、高精度ラップ作業、難易度の高い設備の復元作業の技能指導を行い技能の継承を推進している。

本人近影



[コレットチャックの調整]



[若手技能者の育成]

5 部門	しもいで りゅういちろう	57歳	配電盤・制御盤・開閉制御機器組立工	《名簿番号40》
	霜出 竜逸郎		【株式会社 アイシン 広報部 TEL：0566-24-8232】	愛知県推薦

○【ものづくりを守り、次世代に繋ぐ設備保全のスペシャリスト】

入社以来、生産に関わる多種多様な一万台余りの設備立上げから維持・管理・故障時の解析や修正等を担う保全のスペシャリストである。特に電子制御装置における故障対応や未然防止の優れた技能と知識を有し、業界初となる設備へ刃物を取り付ける際に空気圧の変化で挟まっている切粉に反応し、制御回路を通じて設備を止める「ツール浮き上がりFP装置」を考案し、品質不良ゼロを達成した。

また、社内外問わずものづくりの素晴らしさを教え、後進の指導育成や技能伝承にも貢献している。

○【責任感とプロ意識で困難な状況を切り拓く】

入社後、生産設備の設備保全部署に配属され長年、設備のメンテナンス、予防保全、改良保全、新設ラインの立ち上げに携わってきた。技術革新で設備が日々進化する中、常に最新の知識を学び続け、設備の構造や動作原理に精通し、特に配電盤、制御盤、制御機器の組み立てにおける腕を磨き上げてきた。「設備の安全と効率は自分の責任だ」という強い信念を持ち、設備保全の現場ではどんな困難な状況でも強い責任感と揺るぎないプロ意識で妥協せず高品質な作業を完遂してきた。

現在は、設備保全の分野で培った膨大な経験に基づき、電気系統のトラブルシューティングから最先端の制御システム導入まで、未来を見据えた設備の技能伝承に尽力している。

本人近影



〔導入設備のセットアップ・動作確認作業〕



〔実機を使った後進の育成〕

6 部門	ながの おさむ	65歳	職種 自動車部品組立工	《名簿番号47》
	永野 治		【株式会社 ピーケーサービス TEL : 0466-47-7100】	神奈川県推薦

○【絶対に諦めない姿勢から培った幅広い技能と知識】

大型トラックの車軸部品の溶接組立作業に長年従事し、優れた溶接技能と知識を有しており、職場の安全、品質、作業効率の向上に貢献し、組立ラインの自動化を実現してきた。

また、自身の車軸部品の豊富な知識や経験、溶接技術を伝承するための活動や技能検定受験者の指導にも積極的に取り組み後進の育成にも尽力している。

○【失敗を恐れるな、気持ちは常に前へ！前へ！】

18歳から大型トラックの車軸部品の溶接ラインに携わってきた。入社当時は組立ラインには30人の作業者が配置されていて、ほとんどの溶接を人が行っていたが、時代と共に自動化、省人化が要求されるようになり、多くの溶接ロボットを導入してきた。当時はロボットの操作や複数の工と連携させるためのプログラム作成で何度も大きな問題が発生し、数えきれないほどの失敗も経験してきた。しかし、できない理由を並べるのではなくどうしたら問題を解決できるかという考えを持ち、諦めず問題に取り組んできた。この結果、現在組立ラインは7名で運営できるまでの自動化、省人化を達成できた。

今の自分があるのは、会社、家族、関わった全ての人のおかげだと思っているので、今後はこれまでに得た技能、知識を後進に伝えていくことで恩返しをしていきたい。

本人近影



[若年技能者への教育指導]



[大型トラックの車軸部品仮付け溶接(左) 本付け溶接(右)]

7部門	じぬし しげとし	69歳	染物・仕上工	《名簿番号53》
	地主 成利		【地主紋章工芸 TEL : 075-812-3951】	京都府推薦

○【伝統的な紋章上絵の可能性を追求】

紋章上絵とは京友禅や京黒紋付染加工の最終工程で、家紋を着物に施して紋付としての完成となるものである。伝統的技法である紋章上絵で重要な、専用の筆と墨による紋上絵技法において、また手彫りによる紋型紙作成においても、描かれた線の細さ、伸びのあるしなやかな仕上がり等、他の追随を許さない。

精緻かつ美しいデザインは業界第一人者と評価が高く、映画やテレビ舞台衣裳等、また博物館収納品と作成依頼は絶えない。コンピュータを用いた家紋デザインの開発にも早くから取り組み、1998年から本格的な商業化を開始している。京都紋章工芸協同組合に所属し若手後継者の技術向上に寄与している。

○【美しい家紋の世界に魅せられて】

幼少の頃より絵を描くのが好きで、将来は漠然とそういった仕事に就きたいと考えていた。縁あって1978年に京都へ。爾来紋章上絵一筋に積み重ねた技術は自然に身についたものではなく、これからも日々研鑽の姿勢は変わらない。

今後は美しいデザインの家紋を世界中に広めていければと思っている。

1936年に京都紋章工芸協同組合が発行した、きもの業界以外からも信頼の厚い「平安紋鑑」があるが、組合理事長として完成に尽力した令和改訂版では、コンピュータによる作図を多く用い、より美しくし、完成発刊の短縮化、データベース化などに威力を発揮し高い評価を得ている。

本人近影



[袴(かみしも)に紋章上絵を施す]



[男紋付、秋田家牡丹(あきたけぼたん)大きさ約55mm]

8部門	つのだ はるえ 角田 春江	72歳	婦人・子供服仕立職 【アトリエ つのだ TEL : 0470-30-8494】	《名簿番号54》
				団体推薦

○【注文服仕立職人として】

婦人服の仕立て職として特に縫製技能に卓越し、第25回技能グランプリ大会において第1位の厚生労働大臣賞を受賞し、またその技能を活かし、技能コンクールにおいては厚生労働大臣賞をはじめ数多くの上位入賞を果たしている。高度な技能を評価され、著名なデザイナーの作品を数多く手掛けている。

また、「ものづくりマイスター」として子供達に体験教室での技能指導や、技能検定委員として後進の技能向上等に大いに貢献している。

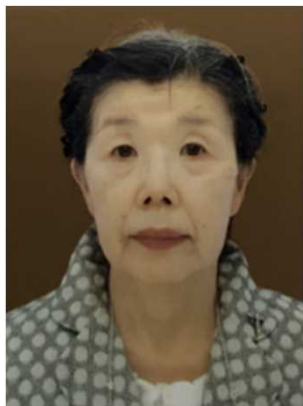
○【好きな仕事を継続してできる喜び】

幼少の頃、祖母が手作りする人形に魅せられて、洋服作りに興味を持った。15歳で縫製工場に勤務する傍ら、職業訓練校及び夜間高等学校を卒業した。

既製服ではなく注文服に魅力を感じて、オートクチュールのお店に勤務しながら、服飾専門学校に通い学びを深めた。デザインから仕上がりまで、全てのプロセスを大切にし、何よりお客様に喜んでいただける技能の持ち主となる事を念頭に、日々研鑽を重ねてきた。1級技能士を取得し技能グランプリに挑戦したが、力及ばず敗退した経験から、5度目の挑戦で第1位となった。

歳をとっても続けてこられた仕事に感謝すると共に、喜びを感じている。これからも確かな技術をお客様に提供し、「ものづくりマイスター」として技術、技能を伝承するよう奮闘したい。

本人近影



[寸法直しの手作業中]



[2003技能コンクール 厚生労働大臣賞受賞作品]

9部門	たかはし しげよし	70歳	建設・土木作業員	《名簿番号63》
	高橋 茂吉		【株式会社 アサヒテクノ TEL：0197-73-6015】	岩手県推薦

○【土と水に関するスペシャリスト】

薬液注入技士、ウェルポイント施工技士、地質調査技士、1級土木施工管理技士を取得し、多様で高度な要求に対応できる熟練した技術者である。自身が発案したスーパーウェルポイント工法により、施工困難な地盤からの地下水除去を可能とし、東北地方発明表彰を受賞する等、素晴らしい実績を残している。

特許を伴う技術伝承のため、講師となり施工手順・方法を指導。また、スーパーウェルポイント技能士育成のために社内外問わず勉強会を開催し、技術の向上・継承に尽力している。

○【革新の地盤改良技術で未来を築く】

地盤改良の会社に長く所属し、薬液注入、セメント改良工事等に従事。その会社倒産後に盛岡営業所のメンバーでアサヒテクノを設立し、SWP工法を開発、特許取得。海の中や河川の中でもスポット減圧が出来、大気圧条件下で人間が安全に作業可能。後にこの現象がCVT現象と分かり、それに衝撃波も利用する事で、短期に木材の乾燥や地盤に応用すると地滑り対策、液状化対策、軟弱地盤改良等に有効と判明。

地質調査報告書を鵜呑みにせず、現地にて地表踏査をして自身の目で地形・河川の位置を把握。地下水位低下に伴う圧密沈下対象の構造物の重要度を鑑みて発注者と打ち合わせをし、当社の多くの特許工法にて、安価で安全な提案を出来る能力は誰にも負けないつもりである。

本人近影



[工事現場現地視察、安全パトロール実施時]



大勢の人に技術を継承するべく、年1回、誰でも参加出来るCVT研究会ディスカッションを開催。

[CVT研究会ディスカッション]

10部門	つかもと ゆうと	63歳	かわらふき工	《名簿番号64》
	塚本 勇人		【株式会社 瓦粹 TEL : 0538-43-8624】	静岡県推薦

○【温故知新・磨かれた技能に新しい技能を融合させその時代を築く】

一枚一枚行儀が異なる瓦の合端技能と屋根を構成する曲線を美しく築き上げる技能に卓越しており、効率性と精度を高めるために様々な治具を考案している。国土技術政策総合研究所(一社)全日本瓦工事業連盟との研究で、長期優良住宅対応の施工法である高防水高耐久工法を確立し全国に普及させた。

また、特定非営利活動法人日本瓦葺技能継承薈会を理事長として立ち上げ後継者育成や、(一社)全日本瓦工事業連盟の一員として、技能グランプリの問題作成等、業界発展に貢献している。

○【瓦の文化を後世に】

塚本瓦屋の4代目として幼き頃より瓦と粘土に触れあう生活をして来た中で、父親が病弱であった事もあり、いずれは家業を継ぐことになるだろうと自然と受け入れて過ごしていた。先代までは瓦製造と一般住宅の屋根工事が主な仕事であったが、25歳の時に携わらせていただいた神社が一つの転機であった。仕事に対する多くの問いを持ち、「分からない事が分からない」手探りの状態であった中、問いを解くために【京都の名工】徳舛敏成氏に師事。「心ありて技生きる」寺社建築瓦葺きの技はもとより、人として心の成長が技能の成熟に繋がる事を教示いただいた。

今持ち合わせた技能は、先人から恩を受けお借りしているものであり、受け継いだ心と技を磨き次代へと引き次ぐ人材育成が恩おくりに繋がると考え、文化の継承に尽力している。

本人近影



〔築地葺きによる棟積み施工〕



〔静岡県藤枝市：大慶寺本堂 唐破風千鳥屋根が混在する権現造りの御堂〕

11部門	こだいら さだお	70歳	造園師	《名簿番号75》
	古平 貞夫		【有限会社 古平園 TEL：029-864-0777】	茨城県推薦

○【人生100年 ものづくりの肝心な点はマニュアルや言葉では伝わらない】

日本庭園の伝統技術に独自の感性を加えた築庭技術は他の追随を許さない。「筑波石」を用いた石積み・石張りを中心に、時代にあった庭をつくることを第一に考え、石工事を主体とした管理のしやすい庭造りを心がけている。御影石の平板を自由に加工し大小張り合わせることで庭に軽快なリズムをつくる「雲仙敷き」と呼ばれる石のアプローチを考案している。

また、技能検定委員等として技能検定の運営に貢献するとともに、各種講習会や高校生の実習の講師や技術指導を行い後進の育成に尽力している。

○【生涯現役 庭園文化を後世に引き渡す】

農業を志したが、オイルショックを体験、資材不足に見舞われ断念する。学生時代のアルバイト先の植木生産業で農地を有効利用できると考え、造園業の道を選び、住み込みで修業をする。

造園のなかでも植木生産・公共工事・民間工事とどの道を選択するか悩んだが、個人住宅の造園工事に魅力を感じ民間工事に専念。造園における伝統工法を守りつつ、今の時代に適応させ、さらに進化させて未来に引き渡す、それが私の責務であると思う。

本人近影



〔剪定講習会にてマツの剪定の指導風景〕



〔雲仙敷き園路の周りに苔を植栽し山上の雲海をイメージした庭〕

12部門	こいずみ としのぶ	83歳	窯業絵付工	《名簿番号78》
	小泉 年延		【株式会社 藏珍窯 TEL : 0572-23-6122】	岐阜県推薦

○【陶磁器上絵付】

陶磁器上絵付技術の赤絵・染付・金欄手・水溶き技法・うるし蒔技法・油とき技法等に、卓越した技術を習得している。伝統技法を継承するだけでなく新しい技法とデザインの開拓に力を注ぎ、その技術力は優秀で高く評価されている。

また、その指導力は産地における後進への上絵付け技術の技術向上・人材育成に貢献している。業界における第一人者である。

○【私の食器づくりの理念】

昭和16年、江戸時代より続く社家(神官)の12代目として多治見市に生まれ、岐阜県立陶磁器試験場工芸科研修生課程を修了し、幸兵衛窯にて修業。5代目幸兵衛、加藤卓男(人間国宝)両先生に師事。

私は、一人でも多くの方と食卓で小さな「しあわせ」を共有したい、という思いで「ものづくり」をしてきた。日本の工芸の歴史は、職人の素晴らしい技術によって支えられている。

私共のような窯元の職人は作品を作る人ではなく、伝統を踏まえた技術をしっかり継承していく技術者である。その技術を磨く為に必要なことは名品を写すことだと思う。名品を写すたびに土・釉薬・絵の具の研究を重ねている。

写しの技術の全てを食器づくりに活かす。食器づくりが私の原点である。

本人近影



【写しの元となる資料をみながらの上絵付】



【銀彩すすき俎板大皿】

13部門	ほしかわ やすひろ	82歳	水引細工工	《名簿番号84》
	星川 安弘		【星川結納店 TEL : 0896-56-2761】	愛媛県推薦

○【色とりどりの水引で表現する匠の技】

昭和34年から家業である星川結納店において水引細工の結納品等を制作している。

頭の中で思い描いた作品を定規等の道具を使わず手の感覚だけで制作していく様子は、熟練した匠の技がうかがえる。その技法は、同業の伝統工芸士に伝授されており、水引細工の普及及び伝承にも尽力している。

また、伝統的な技法だけでなく新たな手法の習得に挑戦しており、デザイナーとのコラボレーションにより制作したモダンな作品は、水引細工の新たな可能性を引き出している。

○【基本を大切に水引細工の可能性を広げる】

幼い頃から水引細工であった両親の作業姿を見ていたため、水引は身近な存在であり、自然と水引細工の道に進み、結婚後も夫婦二人三脚で家業を守ってきた。

水引細工の制作は全て手作業であるため、結納品の注文が多かった時代には作業が追い付かず徹夜をすることもあったが、近年では結納品の需要が減り、現代社会に応じた作品の制作を思案している。

その一つとして「水引かぶと」を制作したが、兜の立物等の特徴を水引で再現することは難しく、改めて基本の結びが大切であることを実感した。

また、今後若い職人が更に減少し後継者不足が顕著となるが、積極的に技術の伝承を行い、伊予水引の発展に尽力したい。

本人近影



[松の制作風景]



[水引かぶと（源義経・真田幸村・織田信長・伊達政宗・徳川家康）]

14部門	さの やすお	71歳	洋生菓子製造工	《名簿番号91》
	佐野 靖夫		【株式会社 レーブドゥシェフ TEL : 078-706-5080】	兵庫県推薦

○【類まれなる発想力で洋菓子業界を牽引】

長年にわたりコンテストを通じて関西の技術面をリードし続けてきた。さらに、その豊富な経験と類まれなる発想力を駆使して洋菓子製造技術の改良、開発に取り組み続け、特に和菓子の製餡機からヒントを得て開発したカスタード製造用マシンは、それまでの重労働からの開放と生産性の向上に大きく貢献するとともに業界の女性進出を後押しした。

また、世界的コンクールの日本代表をあまた輩出する等、後進の育成にも手腕を発揮し、広い視野を持つ技術者、指導者として業界内外での評価は極めて高い。

○【お菓子作りは“しあわせ産業”】

和菓子屋の三男坊として生まれ、菓子作りが身近な環境で育つ。北海道での酪農の経験を通じて、しぼりたての牛乳から出来た生クリームのお味に感動し、洋菓子の道に入る。原材料である卵やフルーツは産地に足を運んで自ら選定。天然素材にこだわり安心できるおいしさをモットーに商品づくりに取り組んでいる。今でも現場に入っているときが一番楽しく、洋菓子作りは天職であると思っている。

お菓子は人を幸せにする力を持っている。お菓子を通じて人と人とのきずなが深まるのが嬉しい。「作る人も食べる人も幸せでありますように」との願いを込めて、日々夢を語り、こころと技術で人材育成に励んでいる。

本人近影



[マジパン細工の製作風景]



[製餡機にヒントを得た「カスタードクリームマシン」(左)と得意のマジパン細工を乗せたデコレーションケーキ(右)]

15部門	いとう けいこ	77歳	婚礼美容師	《名簿番号99》
	伊藤 恵子		【株式会社 美容マリールイズ TEL : 03-3357-6621】	一般推薦

○【婚礼花嫁支度・美しき伝統を次代に引き継ぐ】

美容室及び結婚式場において婚礼着付に従事し、その間終始技能の研鑽に努め、優れた技能をもって業界の第一人者として、全国同業者の社会性向上に尽くしている。婚礼着付の技能については留袖、振袖、打掛等の婚礼に関わる美容着付に精通し、品格と伝統を重んじつつ、時代に則した楽で着崩れしない着付技術を確立した。

また、その技能の模範性をもって全国の同業技能者の技能向上と、社会性の向上に貢献した。同業各団体の着付技能者の指導にも盡力し、後進の育成に努めている。

○【花嫁づくりとは】

祖母・千葉益子 母・マリールイズ昭子以来の無駄な手を省き、順に手を重ね、帯・着物の持つ本来の美しさと、花嫁の持つ気品を面と線の美しさで表現するものである。

時勢の推移で花嫁の形に変化はあるが、本来的な伝統美をどう生かすのか、普遍的な美しさはどこに宿るのか...とその神髄をはっきり掌握。仕事に臨んでいる。

帯地等、せっかくの美しい文様は型創りのために過剰に畳んだり結んだりを潔しとせず、古来からの型にのっとり品格を表現することに特に留意。それが一番難しい表現である事を今日痛感している。

本人近影



〔職訓法人全日本婚礼美容家協会にて花嫁着付けの展示〕



〔新美容出版株式会社発行『月刊Shinbiyo 2011年10月号』掲載〕

16部門	ほりい よしのり	63歳	日本料理調理人	《名簿番号108》
	堀井 良教		【株式会社 更科堀井 TEL : 03-3403-3401】	一般推薦

○【日本の伝統的江戸蕎麦の伝承者】

江戸時代に生み出された“江戸前”ソバの代表であり各大名家や後には皇室にも出前されたという芯だけを削り白い蕎麦に仕立てた江戸前「さらしな蕎麦」や、戦前は台湾まで出前したという「半生蕎麦」の開発をもつ堀井家の伝承者。さらに現代に「作業化」と「味」を併せた日本の伝統的江戸前ソバの継承と開発に従事している。

創業は寛政元年。「更科」とは信州ソバの集散地だった更科の「級」の音に保科家から許された「科」の家を当てたものと伝えられている。

○【「江戸蕎麦」の伝統を大切にしながら、そばの可能性を追求する】

大学卒業後、家業を継ぎ「江戸蕎麦」の伝統を学び続けてきた。その技術や精神を習得し、後進に伝えてきたが、それは自店だけでなく、そば業界全体から引き継がれてきたものだと感じている。今後もこの伝統を守りつつ、そばの新しい可能性を追求していきたい。

そばは非常に栄養価が高い。ビタミンBが豊富で、高タンパク低脂肪という健康的な食品だ。さらに、そば汁は濃口醤油と出汁の旨味が詰まっており、低脂質・低糖質でも満足感を与えてくれる現代の健康志向にも合った特異な調味料といえる。また、作物としてのそばは荒れた土地でも育つため、食糧難に直面する地域での救荒作物としての役割も果たせる。グルテンフリーの製麺も可能であることから、近年の食のトレンドに対応できる食材ともなり得る。私どもの店の名物「更科そば」は、そばの実の芯だけを使った上品で癖のない味わいが特徴で、様々な国のスープやソースとも相性が良く、世界に広める可能性がある。

今後も「江戸蕎麦」の伝統を守りながら、そばの新たな可能性を追求し、そば業界全体の発展に貢献していきたい。

本人近影



[蕎麦切り]



[更科そば・柚子切りそば]

17部門	みかみ かずとく	74歳	表具師	《名簿番号123》
	三上 和徳		【永成堂三上表装店 TEL：026-278-9124】	長野県推薦

○【アイデアカにあふれた表装業界の実力者】

表具に関する優れた知識、技能及びアイデアカを有しており、伝統的に使用されてきた正麩糊の使いやすさを継承しつつ、劣化によって本紙の折れや破断が生じやすい欠点をカバーした裏打専用糊の開発を行った。

また、不可能とされていたガラスビーズ絵画への裏打ち法の考案を行った。

中央及び長野県の技能検定委員や講習会の講師を務めたり、長野県認定「信州ものづくりマイスター」として中学生等の若年者に講座を行ったりする等、後進指導育成にも積極的に取り組んでいる。

○【伝統的な表装技術を後の世に残す礎として働き続ける】

私がこの道に入った頃と現代では、生活環境が大きく変わった。その要因の一つは建築様式の変化といえよう。この大きな変化により、古くから伝えられてきた表具経師技術が消え去ろうとしているのは本当に残念なことである。この流れは、伝統文化を継承しようとする考えに、大きな足かせとなっている。

内装工事の壁装施工技術は表装の伝統的技術がルーツであり、この表装技術を活用することにより、安心安全な生活環境が保たれ、かつ、日本文化も次代に受け継がれると信じている。

表具、内装材の素材である糊や紙の性質を知り、これを活かした作業法を後進に伝え、日本文化を残していく。

本人近影



〔長野市指定文化財鬼無里神社祭屋台の屋根和紙葺き工事〕



〔長野市鬼無里神社祭屋台曳航の様子〕

18部門	もりや かずてる	63歳	広告美術工	《名簿番号126》
	守屋 一輝		【株式会社 サインファースト TEL : 053-468-6155】	静岡県推薦

○【芸は身を助ける・人の役に立つ】

文字の手描き技能に卓越しており、どの書体の文字であっても下書き無くフリーハンドで、かすれや塗料の垂れが出ない最適な量の塗料で描くことができる。また、狭小地での看板設置を可能とする工法の開発に携わり特許を取得した。

令和元年より中央技能検定委員を務め、問題の作成、検証など技能検定の企画から運営まで携わっている。また（一社）日本屋外広告業団体連合会では理事を務め、国土交通省から委託された屋外広告物点検技能講習の講師を務め、業界の発展に貢献している。

○【だめ、無理、出来ないは工夫して乗り越えろ】

幼い頃からものづくりに興味があり、家業が塗装屋であったため、塗料の扱いにも慣れてきた。兄の紹介で看板屋へ入社すると、文字書き、イラスト書き、内照式看板の製作等、どれも興味深いものばかりであったため、早く技能を習得し、きれいな作品を仕上げることができるように練習を続け、多種多様な作品を手掛けてきた。そのままでは製作することが困難である作品においても、工夫をすることで施主の思いをなるべく製品に反映できるよう仕上げてきたことで技能が評価され、同業者からの相談を受けるようになり、数多くの看板製作に対してアドバイスを送ってきた。

全てを完璧にこなすことはできないが、今後も自分の持っている知識と技能で、顧客のイメージする作品を実現させるための挑戦を続けたい。

本人近影



[令和3年第31回技能グランプリ作品製作の様子]



[令和3年第31回技能グランプリ完成作品]

19部門	たちかわ さとし	71歳	印判師	《名簿番号133》
	立川 智		【緑泉堂立川印房 TEL : 055-279-3977】	山梨県推薦

○【素材よりも彫りにこだわる】

日々技術の研鑽を重ねて会得した小篆体（しょうてんたい）を駆使した印は、字の優雅さやその納まりが独自性に溢れ、全国大会では2部門（角印の部、密刻の部）で大臣賞に輝く等、高い評価を得ている。その技術力の高さから、一等印刻師、甲州手彫印章伝統工芸士に認定され、実用印の製作をはじめ、干支印や富士山印を考案して、新商品開発にも熱心に取り組んでいる。

また、甲州手彫印章伝統工芸士会会長として指導的立場で、後進の育成にも励んでおり、印章業界の発展のために尽力している。

○【自慢のできる1本をつくりたい】

23歳の時、父（立川桂州）に師事。当時は開運印ブームで、山梨には「にわかはんこ職人」が多数いたが、このブームは技術の低下を招いた。全国レベルの技術習得のため、著名な先生の講習会やグループ勉強会等あらゆる機会を捉えて勉強。二つの大きな大会にも挑戦し、良い成績を収めることができた。

特に、大賞を受賞した日本初の賞金付き大会（エブリナコンテスト）は、象牙の代用品となる新素材の宣伝を兼ねたものであった。「良いはんこ＝象牙のはんこ」と言われているが、私は何（素材）にではなく、何（刻字）が彫ってあるかが大切だと思う。店を出して36年、依頼されたはんこが一番のものになるよう心がけている。高級素材のはんこでなくても、自慢できる一本にしたい。

本人近影



[実用印の製作風景]



[第10回全国印章技術大競技会通商産業大臣賞の作品]

20部門	いわさき まさじろう	61歳	ソフトウェア開発技術者	《名簿番号134》
	岩崎 雅二郎		【LINEヤフー 株式会社 連絡先 : https://www.lycorp.co.jp/ja/contact/ 】	団体推薦

○【類似画像検索の研究開発を経て世界トップクラスのベクトル近傍検索を実現】

画像の特徴を表すベクトルデータの抽出及びそのベクトルデータの検索からなる類似画像検索の研究開発に長年従事し、その技術はEC等の様々なサービスで利用され、類似画像検索の進歩に貢献してきた。

近年、グラフや量子化を用いたベクトルデータ検索 (NGT) が世界トップクラスの性能を達成し、オープンソース化により世界で広く利用されており、更なる改善に向け研究開発を継続している。また、AIを用いて類似画像検索の高精度化を目指す研究開発の支援も行っている。

○【若い頃のワクワク感を大切に】

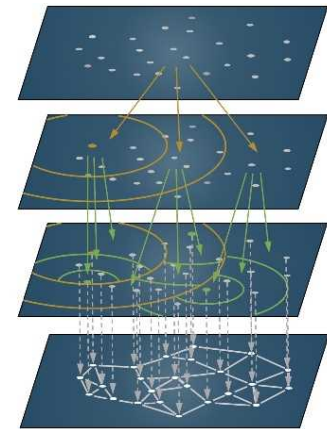
高校時代にPCにはまり、画面上に表現できるものは何でも自分の手ひとつでプログラミングできることに気づいたとき、その無限の可能性へのワクワク感は今でもつい昨日のここのように思い出す。就職した後、類似画像検索の研究開発を開始した当初からECでの商品検索を応用例として想定していた。あれから約30年、ニューラルネットを用いて人間の知覚レベルの商品検索を実現できたことは感慨深い。

また、所属企業のオープン指向に支えられて公開できたベクトル検索は、公開サイトの主要言語を英語にしたことで、世界で使われるソフトウェアに成長した。こうして、若い頃のワクワク感を大切にした結果、技術の進歩に貢献できたこと、そして、今でもプログラミングで少なからずワクワクすることに幸せを感じる。

本人近影



[サテライトオフィスでの研究開発作業の様子]



[類似商品画像検索アプリの一つであるFAVNAVI (左) とベクトル検索 (NGT) のインデックス構造 (右)]

21部門	うえだ てるゆき	60歳	微細加工実験工	《名簿番号136》
	植田 晃之		【独立行政法人 造幣局 TEL : 06-6351-5158】	大阪府推薦

○【純正画一な貨幣製造を支える裏方への徹底】

貨幣の偽造抵抗力の向上に関する研究開発、貨幣製造技術の一層の高度化及び製造工程の効率化に関する研究業務に長年従事しており、特にマシニングセンタによる加工について優れた技能を有している。貨幣用金型へのマシニングセンタによる潜像加工については、長きにわたり研究開発に従事し実用化に繋げるとともに、海外造幣局に対しても技術指導を行っている。

また、その技能を活かし、新製品開発に向けた微細加工技術の実用化に向けても大きく貢献している。

○【新しい事への挑戦は決してあきらめない気持ちを貫くこと】

造幣局入局時は製造部門で圧延板製造を担当していたが、その後、組織機構の変更により職場が変わる際に自分自身で何か新しいものを生み出せる部署を希望し、現職場で研究開発に携わるようになった。

配属時は画像処理装置の開発に携わり、これまで全く未知の世界であったコンピュータ及び画像処理技術を一から学ぶことに初めは戸惑いを感じたが、数年間研究を続けていくうちに理解が深まり、画像処理装置の実用化に繋げることが出来た。このことが、のちの研究活動の自信となり、貨幣製造の中でも重要な技術である潜像加工に必要な微細加工技術の研究にも繋がった。

こうした経験から得た「未知の分野であっても常に興味を持って学ぶ姿勢を保ち続ければ、いつかは成果につながる」という心構えを、後進職員と研究を進める中で技能とともに伝えている。

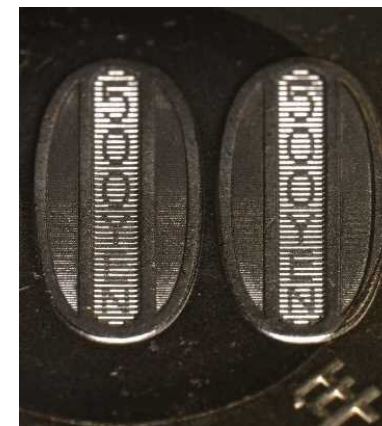
本人近影



[微細加工の設計検証のためマシニング加工]



拡大



貨幣を傾けると文字が見え隠れする技術。貨幣を見る角度、つまり光の入射角、反射角による反射光の明暗の差による現象を応用したもの。

[潜像加工の例]

22部門	やました やすお	62歳	印判師	《名簿番号137》
	山下 弥壽男		【有限会社 山下弘栄堂 TEL:075-392-3580】	京都府推薦

○【確かな技術で圧倒する】

氏は、聴覚障害を持つことから手に職を持つことを父親に勧められ、家業である印章業へ就職と同時に弟子入りをした。師匠の傍らに座し、その技術を見て盗み身に着けるよう言われ繰り返し練習を重ねた。甲斐あって印章彫刻、篆刻において「字法、章法、刀法」を極めた。印面の粗密を考え整った美しさだけでなく力強い印章を作り上げる。

第16回技能グランプリにおいても労働大臣賞を受賞した。障害に怯むことなく先頭に立って技能士会長を務め、後進の指導や技術の向上、業界の発展に貢献している。

○【伝統技術の継承者を育てたい】

自身の聴覚障害のことを考えて、手に職をつけようと家業である印章店の継承を決めた。まずは、技術の習得のために印章店に住み込みで就職し弟子入りをした。当時師匠から「技術は口で教えても上手く伝わらないので、私の技術を見て学べ」と言われ、多くの弟子たちと共に5年間切磋琢磨し、師匠にその努力に見合った技術力を認められた。

修行の終了後は、自身で印章店を経営しつつ、自分の技術力を高めたいとの思いから、作品展への出品や技能グランプリへの出場を続け、技能グランプリで労働大臣賞を受賞。

現在は、職業訓練指導員という立場から、技術の継承の難しさを痛感している。弟子たちには、見ている前で自分の技術を隠さずに披露し、反復練習をさせ、技術的なポイントを指摘する。やる気を持たせるために常に褒めることを心掛けている。

本人近影



[すべての製作工程では機械を使わず手彫り]



[細密な図柄を施し文字を引き立たせた密刻作品]